

まるで「いじめ」...!? 卑劣なやり方で出向=首切りを強要

今、勤労現場で
何が起きているのか
NO.10

日刊 勤労千葉

85. 10. 3

No. 2054

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七〇七

「今は骨身を削る時」「出向に行け」「往復キップがあっても(?)帰るな」と叫ぶ勤労「本部」革マルの意を受けた、わが勤労「本部」デッチ上げ銚子支部では、おどろくべき事態が発生している。

「本部」革マルの恫喝で役員
総入れ替えし、出向を強制

「銚子支部」は、この間、役員が先頭になり出向の取り組みを行ってきた。しかし、当然ながら誰一人手を上げる者はいなかったのである。しかたなく「役員が行く」と決定したものの、これもまた誰一人行く者がなく完全に出向路線は破産していたのである。

これに激怒した勤労革マルは、支部を恫喝し、8月下旬、支部大会を開かせ、役員を総入れ替えし、新役員の内四名を「自主的」という名目で潮来自動車販売へ10月1日から出向させることを決定したのである。

要するに「おとなしい」組合員を役員に仕立て「役員が先頭に行く」という方針をたてに、出向を強要するというおどろくべきやり方で実効をあげんとしたのである。

組合員を犠牲にしても、革マル・追従分子だけ「助かり」たい

まさに、この卑劣なやり方こそ「本部」革マルのやり方である。「期間を三年から二年にした。これで新会社に残れる」と組合員を言いくるめんとしているが、「当局の言うまま、なすがまま」の彼らには国鉄はなくなってしまう、大赤字と過員をかかえた新会社に帰ってこれる保証など何一つない。

本気で組合員の身分保障を考えていると言ふのなら、今こそ全組合員の団結と戦闘力をうち固めて「分割・民営化」

大量首切り攻撃を組織の総力をあげて実力で粉碎する道をこそ選ぶべきなのだ。そのために「組合」を創り「組合費」を納め「役員」を選んできたのではないのか。今日のような勤労「本部」の姿の中には、本来の「組合」の姿の片りん一つもなくなっているのである。

革マル分子だけが生きのこるため、国労・勤労千葉の首を切れと叫び、自らの組合員すら平気で犠牲にする。勤労「本部」革マルを一掃せよ。

!!! 団結祭典を成功させよう !!!

11月2日 拡大運営委員会 開催

勤労千葉サークル協会は、九月三〇日、動力車会館において本部サークル協運営委員、各支部サークル担当者全員が出席し、第二回拡大運営委員会を開催し、サークル協最大の行事である団結祭典の取り組みとして、祭典実行委員会を発足させました。

第七回団結祭典を全組合員、家族の力で成功させ、この間ますます激化している国鉄「分割・民営化」国鉄労働運動解体攻撃をはじめとする一連の攻撃をはね返していきましょう。

第七回 団結祭典

日時—十一月三日(祭) 九時集合

(雨天の場合は十一月四日)

場所—千葉鉄道学園グラウンド

※尚、祭典実行委員会は、本部サークル協運営委と津田沼、幕張、千葉転支部より各五名、本部から片岡組織部長、青年部長を含めた実行委員で構成します。